

○新人です、よろしくお願ひします！(研究職編 No.1)

※当センターの本年度新規採用職員13名を、今回から3回に分けてご紹介しします。



私たちは、農産園芸研究所、生産環境研究所、畜産研究所で研究職として働いています。農作物の栽培や家畜の飼育、各種分析機器の使用など慣れないことが多いですが、先輩方に教わって、熊本の農業振興に貢献できるように頑張ります！

○視察に来ませんか！?



当センターでは、ご希望に応じて県内の農業や教育関係の方々の訪問視察を受け付けています。県が育成した新品種や開発した新技術について皆さんに紹介し、現場の視察も行います。

1 申込方法

電話で、視察希望の研究所に日程、人数、視察内容等についてご相談ください。日程等が決まったら、申込み書※をメールやFAX等でご提出願ひします。

○実施日時：平日(月～金曜日)の午前9時～午後4時(正午～午後1時以外)
※休館日：休日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

○留意事項：決定後でも、公式行事や農繁期、家畜伝染病等の都合で、日程変更等をお願いする場合があります。

また、知的財産保護や家畜防疫の観点から視察範囲を制限していますのでご了承願ひします。団体や組織単位での視察をお願いしします。



(※申込書様式)

2 申込先

| 研究所名 | 電話番号 | FAX番号 | 住所 |
|---------------------------|----------------------|--------------|--|
| 農産園芸研究所 | 096-248-6411 (代表) | 096-248-6415 | 〒861-1113 合志市栄3801 農業研究センター本部 (窓口) 視察広報案内員 |
| 生産環境研究所 | | | |
| 畜産研究所 | | | |
| 茶業研究所 | 096-282-6851 | 096-282-6853 | 〒861-3208 上益城郡御船町大字滝尾5450 |
| 高原農業研究所 | 0967-22-1212 | 0967-22-2252 | 〒869-2612 阿蘇市一の宮町宮地5896-2 |
| 草地畜産研究所 | 0967-32-1231 | 0967-32-4504 | 〒869-2304 阿蘇市西湯浦1454 |
| アグリシステム総合研究所 (旧、い業研究所) | 0965-52-0372 | 0965-52-7993 | 〒869-4201 八代市鏡町鏡村363 |
| 球磨農業研究所 | 0966-45-0470 | 0966-45-2944 | 〒868-0422 球磨郡あさぎり町上北2248-16 |
| 果樹研究所 | 0964-32-1723 | 0964-33-1575 | 〒869-0524 宇城市松橋町豊福2566 |
| 天草農業研究所 | 0969-22-4224 | 0969-24-1852 | 〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場636 |



熊本県農業研究センター KUMAMOTO Pref.

本紙に関するお問い合わせは、企画調整部企画情報課までご連絡ください。
〒861-1113 熊本県合志市栄3801
Tel.096-248-6422 fax096-248-7039
E-mail: noukenkikaku28@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



X (Twitter)

農研NOW

のうけんらう

No.50

令和8年(2026年)5月
発行：熊本県農業研究センター
熊本県農業研究センターの
取組みを紹介しします

○目次

- P.1 研究成果(令和7年度)を公表してしいます!
- P.2 特集! 温暖化(高温)対策
- P.3 特集! 温暖化(高温)対策
- P.4 新人です、よろしくお願ひします!
農研センターに視察に来ませんか!?

特集、温暖化対策

※今号と次号で、温暖化(高温)対策を特集しします!

○研究成果(令和7年度)を公表してしいます!

生産現場に普及・定着を図る「農業の新しい技術」を3課題、技術情報として農業技術指導者等に提供する「農業研究成果情報」を32課題、ホームページに掲載してしいます。皆様のご活用を願ひしします。

農研NOWでも、随時、ご紹介をしてしいきますので、ぜひ、ご覧ください。



高温登熟性に優れ多収な水稻極早生品種「にじのきらめき」の特性の解明



緩衝資材有り



緩衝資材無し

輸送期間の長期化に対応したイチゴ「ゆうべに」の鮮度保持技術開発



クリ「美玖里」の間伐方法と適正結果母枝数の解明



トマトキバガ(幼虫)の食害



被害リスクはトマトが高い



天敵タバコカスミカメはトマトキバガを捕食する

トマトキバガの総合防除体系構築に向けた生態の解明



温州ミカンの日焼け果発生軽減技術の開発



肉量・肉質に優れた褐毛和種種雄牛「重波弦ET」の選抜

成果発表会の予定

- 8/7 農産園芸・生産環境・アグリ総研合同発表会
- 未定 畜産関係
- 未定 果樹関係研究成果発表会(場所: 果樹研究所 研修館)



©2010熊本県くまモン (HP掲載ページ)



特集！温暖化（高温）対策

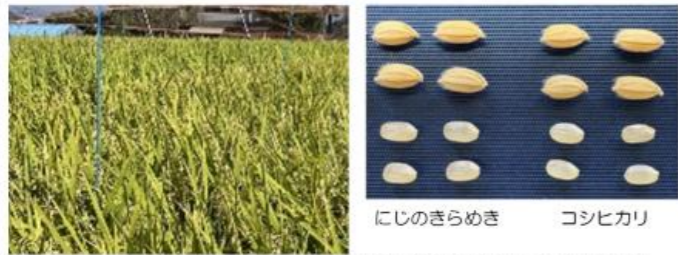


○高温登熟性に優れ多収な水稻品種「にじのきらめき」の特性 (R7新技術 No.767)

水稻品種「にじのきらめき」は、「高冷地普通期早植え」、「平坦地普通期早植え」、「平坦地早期」の作型において白未熟粒の発生が少なく、品質・収量が優れる

【主要な成果】

- ①「高冷地普通期早植え」の作型では、「コシヒカリ」、「平坦地普通期早植え」の作型では「キヌヒカリ」、「平坦地早期」の作型では「コシヒカリ」に比べて、白未熟粒の発生程度は少なく、外観品質・検査等級は優れる
- ②食味は「コシヒカリ」に比べて有意差はなく同等
- ③短稈で倒伏しにくい。千粒重は重く、収量性は高い



にじのきらめきの栽培現場

にじのきらめきとコシヒカリの籾と玄米の比較

○トマト促成長期栽培における定植期の前進化が収量及び収入に及ぼす影響 (R6成果情報、No.1081)

定植時期を慣行の8/20よりも前進化すると、早いほど年内収穫果数は多いが可販果率が低い。慣行の8/20の方が総可販果数、収入ともに多い傾向となった

【主要な成果】

- ①慣行の定植より早期の定植では、茎径が細く着果率は低かった
- ②定植が早いほど、年内の収穫果数は多いが、初期の裂果が多く、可販果率は低かった
- ③このことから、定植期の前進は必ずしも年内の可販果収量の増加につながらない

表1 定植時期と生育、可販果収量および収入の関係

| 定植時期 | 茎径 (mm) | 着果率 (%) | 可販果収量 (t/10a) | | | 収入 (千円/10a) |
|------------|---------|---------|---------------|------|------|-------------|
| | | | 年内 | 年明 | 全体 | |
| 早期区 (7/31) | 7.6 | 74 | 6.4 | 13.1 | 19.5 | 6,196 (84) |
| 中期区 (8/10) | 7.2 | 74 | 6.6 | 14.6 | 21.1 | 6,677 (91) |
| 慣行区 (8/20) | 8.1 | 79 | 7.4 | 15.7 | 23.1 | 7,345 (100) |

注) 品種「かれん」の2021年データを抜粋
 注) 茎径は、生長点下約15cmの位置を測定
 注) 着果率は、各果房開花順に4花の着果実率を調査
 注) 収入は、月別可販果収量に年別月別単価を掛けて算出
 注) 収入の()は、慣行区に対する割合



促成長期栽培中のトマト



特集！温暖化（高温）対策



○モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培は早期出荷と高品質生産ができる (R5新技術、No.760)

モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培では、冬季の7.2℃以下の低温積算時間約630時間を満たした時にビニル被覆をすることで、5月下旬～6月上旬の早期出荷・高品質果実生産が可能

【主な成果】

- ①冬季の7.2℃以下の低温積算630時間でビニル被覆すると、露地と比べて収穫が約2週間早まる
- ②開花が早いほど収穫も早くなる（生育日数約90日）
- ③果実品質は露地と同等であり、健全果率が高く、無袋栽培が可能である
- ④ビニル被覆時期を遅らせれば収穫期も遅らせることができ、労力分散が可能である



「さくひめ」の果実

| 年度 | 栽培型 | 被覆時期 | 低温積算時間 | 収穫盛期 | 1果重 (g) | 糖度 (Brix) | 健全果率 (%) |
|------|------|------|--------|------|---------|-----------|----------|
| 2022 | トンネル | 1/12 | 630 | 6/2 | 252 | 15.6 | 85.8 |
| | | 1/24 | 780 | 6/6 | 225 | 15.1 | 89.4 |
| | | 1/31 | 950 | 6/10 | 260 | 15.1 | 73.0 |
| 2023 | トンネル | - | - | 6/15 | 276 | 15.0 | 73.3 |
| | | 1/10 | 630 | 5/29 | 260 | 16.3 | 92.2 |
| | | 1/25 | 800 | 5/30 | 245 | 15.4 | 94.4 |
| 露地 | - | - | - | 6/5 | 241 | 13.2 | 79.5 |
| | | | | 6/12 | 259 | 15.0 | 77.3 |

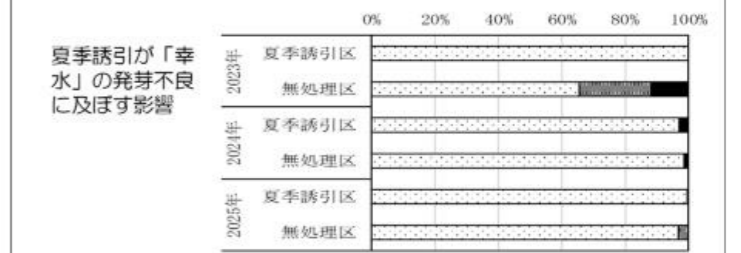
トンネルハウス栽培「さくひめ」のビニル被覆時期別収穫期と果実品質・健全果率

○ナシ「幸水」「新高」の発芽不良は夏季誘引により軽減される (R7成果情報、No.1165)

ナシ「幸水」「新高」では、新梢停止後に予備枝由来の発育枝を夏季に誘引することで、翌年の側枝として利用する長果枝の発芽不良の発生が軽減され、腋花芽の着生率が向上する

【主な成果】

- ①新梢停止後（6月下旬～7月上旬）に予備枝から発生した長果枝を45度で斜め誘引（夏季誘引）すると、発芽不良発生率が低くなる
- ②夏季誘引を行うと腋花芽の割合が高くなる



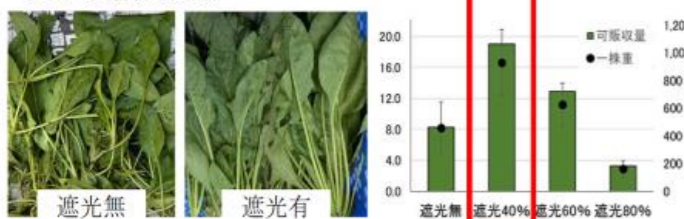
夏季誘引による「幸水」の腋花芽の着生（2025年春）※上の側枝：夏季誘引したもの 下の側枝：無処理のもの

○夏秋ホウレンソウ「ジャスティス」の発芽と生育温度の閾値および遮光資材の利用法 (R6新技術、No.763)

「ジャスティス」の発芽およびその後の生育に影響を及ぼす温度の閾値(境目となる温度)は32℃と34℃の間にある。降温手段として遮光資材は遮光率40%程度とし、収穫10日前に除去すると良い

【主要な成果】

- ①播種6日後の発芽率は、32℃以下では90%以上となり、34℃以上では80%に満たない
- ②生育適温20℃と同等の生育をするのは32℃までである。
- ③降温手段として遮光率40%の遮光資材を使用すると一株重は重く、可販収量も多い傾向になる また、遮光資材の除去は、収穫10日前が一株重は重い傾向である



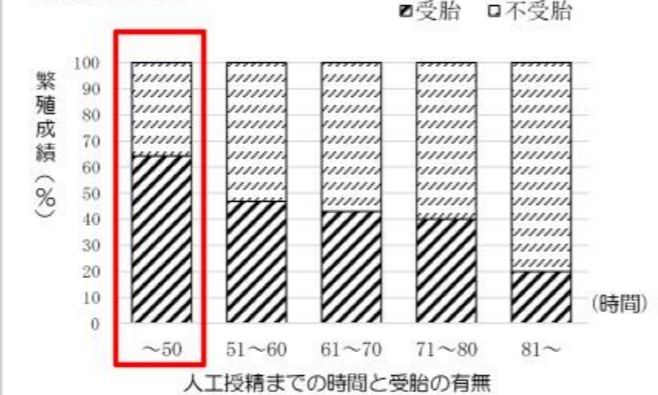
遮光資材を使用すると可販収量が増加

○酪農・搾乳ロボットでのP₄濃度測定は発情不明瞭牛の繁殖成績向上に寄与する (R7成果情報 No.1151)

酪農において、発情行動を示さない牛が増加する暑熱期などにおいても、P₄濃度データを活用することにより妊娠率20%以上を確保できる ※乳中プロジェステロン：排卵後の卵巣から分泌されるホルモン

【主要な成果】

- ①P₄濃度データの低下から50時間後以内に直腸検査を行うと繁殖成績の改善を図ることができ、発情行動を示さない牛に対しても有効である
- ②暑熱期、非暑熱期に係わらず、P₄濃度データの活用は有効である



○加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」では8月の高温時に樹上散水すると果皮障害を軽減できる (R7成果情報、No.1164)

加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」では、8月の1ヵ月間、ハウス内の気温が30℃以上で樹上散水し気温を下げると果皮障害（クリーニング、浮皮）を軽減できる

【主な成果】

- ハウス内の気温が30℃以上になると樹上散水する設定で降温処理をすると以下の効果が得られる
- ①果皮のクリーニング・浮皮の発生が30%程度軽減できる
- ②次年産の結果母枝に利用できる15cm程度の夏芽が揃って多く発生する
- ③収穫時の果実横径や糖度・酸度はほぼ同等である



発生果（甚程度）



樹上散水がクリーニングの発生に及ぼす影響

○温州ミカンの日焼け果は梅雨明け後、炭酸カルシウム水和剤の散布により発生が軽減できる (R7成果情報、No.1163)

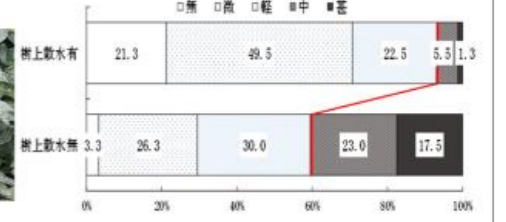
極早生および早生温州ミカンでは、梅雨明け後の日焼け果が発生する前に炭酸カルシウム水和剤（ホワイトコート）を散布（降雨で白斑が落ちた場合は2回目を散布）すると、日焼け果の発生が1～2割程度減少し、程度も軽くなる

【主な成果】

- ①梅雨明け後にホワイトコートを散布することで、果実表面に白斑が生じ、果実表面温度が最高で4℃程度低下する
- ②日焼け果が1～2割程度減少し、程度も軽くなる
- ③果実重や糖度、酸度への影響はみられない
- ④収穫後の白斑は、選果の際ブラシをかけることで除去が可能



ホワイトコート25倍散布後（「肥のあかり」）



ホワイトコートの散布が日焼け果発生に及ぼす影響（「肥のあかり」）